まえがき

この本は、「月刊北國アクタス」に連載した能登の山歩きに新たに五つの山を加えた20山を1冊にまとめたものです。能登はとても広い面積をもつ半島で、高い山は少なく丘陵地帯が続いているところです。そして、その丘陵のいたるところに集落が点在していることもあり、生活道路や仕事のための林道など、車が通る道が網の目のように張り巡らされています。

能登で一番高い山は、宝達志水町にある６３７・１メートルの宝達山で、続いて高いのが輪島市の高州山、そして宝達志水町と富山県氷見市の境にある５６４メートルの石動山ですが、どの山にも山頂まで、あるいは山頂直下まで車道がついています。そのため、いわゆる登山道が整備されている山が少ないのも能登の特徴です。従って、能登の山を歩こうとすると、車道歩きをすることが多くなります。

しかし、広い面積に対して人口が少ないせいか、車道を歩いていてもめったに車とすれ違うことがなく、さほど違和感を覚えないのも能登の山歩きの特徴の一つです。ポカポカ陽気に誘われて、のんびりと丘陵歩きを楽しみたい方々や周辺観光とセットでちょっと山へという方々にとって、能登の山は時間に合わせた計画が立てやすいところです。

あまり疲れないでドライブがてら、ピクニック気分で山歩きを楽しもうという人たちにとって、この本が少しでもお役に立てば幸いです。

２０１２年５月

著者

楽しもう能登の山

海山の幸と日帰り温泉

Contents

まえがき …… 3
能登の里山巡りマップ …… 6
安全で楽しい山歩きのために …… 10
本書の使い方 …… 15
1 山伏山（珠洲市） …… 16
2 宝立山（珠洲市・輪島市） …… 22
3 岩倉山（輪島市） …… 28
4 猿山（輪島市） …… 34
5 高尾山（輪島市） …… 40
6 遠島山（能登町） …… 46
7 焼山（能登町） …… 52
特産品販売・温泉施設情報（奥能登） …… 58
8 高爪山（志賀町） …… 64
9 別所岳（七尾市・穴水町） …… 70
10 虫ケ峰（七尾市） …… 76
11 伊掛山（七尾市） …… 82
12 赤蔵山（七尾市） …… 88
13 七尾城山（七尾市） …… 94
14 眉丈山・雷ガ峰（中能登町） …… 100
15 石動山（中能登町） …… 106
16 碁石ケ峰（羽咋市・中能登町・富山県氷見市） …… 112
17 臼ケ峰（宝達志水町・富山県氷見市） …… 118
18 末森山（宝達志水町） …… 124
19 宝達山（宝達志水町） …… 130
20 三国山（津幡町・富山県小矢部市） …… 136
特産品販売・温泉施設情報（中能登・口能登） …… 142
あとがき …… 148

1 山伏山（やまぶしやま）

義経伝説に守られた奥能登最北端の森

コナラの中に続く明るい道を下る

標高 184m

参考コースの所要時間 約1時間25分

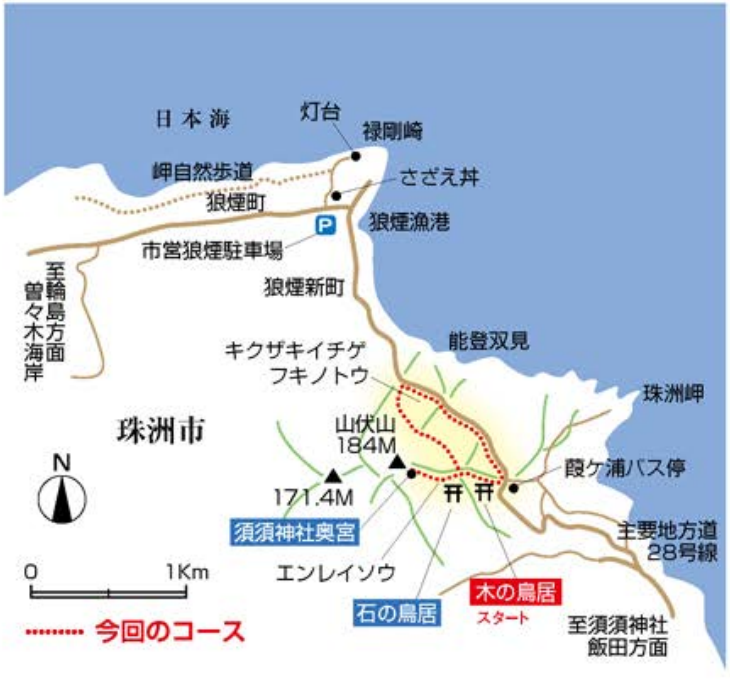
奥能登の最北端にある山伏山（やまぶしやま）に向かった。飯田から蛸島（たこじま）を経て、三崎町を過ぎたところで、海岸線の向こうに山伏山を発見する。珠洲岬から西へなだらかに尾根が延び、途中から急傾斜になり、こんもりと盛り上がるように木々が生い茂っている。

義経愛用の笛

山に取り付く前に、まず須須（すず）神社に立ち寄ることにする。というのは、源義経が都を追われて奥州へ逃げる途中、珠洲岬でシケに遭うのだが、三崎権現（須須神社）に向かってお祈りをしたら、たちまち風がやみ難を逃れた、そのお礼に平家の名宝と伝えられた義経愛用の蝉折（せみおれ）の笛を須須神社に奉納。その貴重な笛を見せてもらえるというのだ。

葭ケ浦（よしがうら）の海に向かって建つ石の鳥

参考コース　スタート 木の鳥居 ▶10分▶ 石の鳥居 ▶25分▶ 須須神社奥宮（山頂）▶15分▶ 石の鳥居 ▶20分▶ 狼煙集落手前の車道 ▶15分▶ 木の鳥居



■おすすめの季節

フキノトウが顔を出す春先から晩秋まで、盛夏を除けばいつでも楽しめる。

■アクセス

主要地方道28号線を北上し、須須神社前を過ぎて珠洲岬へと向かう。峠を上りきり岬に下りる道が右手に現れたら、その反対側の左手向かいに、登山口となる木の鳥居と階段がある。

■アドバイス

トイレ、水場はないので、須須神社で。春先の山菜採りは、立ち入り禁止区域に注意。

●国土地理院地形図　2万5千分の1地形図「珠洲岬」

狼煙漁港のむこうに山伏山が見える

居をくぐり、参道に足を踏み入れる。すぐに鬱蒼と生い茂った木々に包まれる。スダジイ、ケヤキ、モチノキ、モミノキ、ヤブツバキ…。巨大なタブノキの幹には直径10センチほどのイタビカズラが絡まっている。少し登った先の左手に社務所がある。戸を開けて声をかけると、38代目宮司の猿女貞信さんが出てきて、「それじゃあ」と拝殿脇にある宝物殿に案内してくれた。

漆塗りだろうか、蝉折の笛は黒くくすんでいる。その隣には、義経に同行していた武蔵坊弁慶が寄進した「左」の銘が入った40センチほどの守刀も並んでいる。1187(文治3)年と言うから800年以上前のものだ。また上の段には国の重要文化財に指定されている5体の男神像が置かれている。やはり800年ほど前のもので寄木造り。それぞれ顔が違っていて、まさに「東北鬼門日本海の守護神(須須神社)」にぴったりの表情なのだ。

木々に包まれた広い道

猿女宮司の説明に耳を傾け、詰め込み学習をしたところで葭ヶ浦へ。峠にさしかかると、「右手ランプの宿」の案内板が現れた。そして道路をはさんだ左手に階段があって木の鳥居が建てられている。山伏山への登り口だ。そばには駐車スペースがないので、その先にある旧山伏山野営場の入り口に車を置かせてもらって引き返す。能登最北端の山歩きのスタートだ。

須須神社で義経愛用の笛を見せてもらう

山頂に向けた登りは、その先の石の鳥居からだ。ゆるやかな坂道を20メートルほど進むと、モミの巨木が現れる。足元に、エンレイソウが群生している。その先はスダジイ、タブノキ、ヤブニッケイなどの木々に包まれた木立の中に急な登りが続いている。最初はまっすぐ、やがてジグザグになって、私たちを上へ上へと誘う。傾斜はキツイけど、とても歩きやすい広い道だ。

▲能登特有の木々

右も左も能登特有の木々、しかもどれも巨木揃い。「このへんが核心部ですね」と、シャッターを切る山岸カメラマ

山伏山の登り口にある鳥居

山頂にある須須神社の奥宮で一休み

ン。つづら折の途中で、先を歩いていた加藤さんたちが、ちょうどいい具合に横たわっている倒木を見つける。もちろん「休憩にしましょー」となる。「何か独特の雰囲気ですね」「まるで奥深い森の中にいるみたい」としばらく森林ウオッチングを楽しむと、再び急傾斜に挑戦だ。息がちょっと荒くなり始めたところで、道が緩やかになった。

そこから少し、ダラダラーッと下って上り返すと、木々の向こうに須須神社の奥宮が見えてきた。山伏山の山頂だ。もちろん森の中だから、眺望はきかない。かろうじて巨木群の隙間から海が見え隠れしているだけだ。

かわいいキクザキイチゲ

紫色のスミレも見つけました

群生するエンレイソウ

下山は別コース

石の鳥居のところまで下りたところで、下山は別のコースにしようとなる。旧野営場への近道は、途中まで踏み跡も不明瞭なので、もうひとつ左手に続く林道を辿ることにする。「尾根がひとつ違うから、旧野営場からちょっと遠くなりますけどね」と、目見当で下り口を推測する私に、「地図とコンパスはどうしたんですか」とスルドイ質問をする山岸カメラマン。20分余り歩いて、狼煙の集落にさしかかる手前の車道に出た。ここでまた、みごとなフキノトウを発見。

その隣には白いキクザキイチゲの花が咲いている。

旧野営場に戻って昼食をとったところで、禄剛崎の灯台を見に行こうとなる。市営駐車場に車を置き、キツイ坂道を歩いて丘の上へ出ると、真っ白な灯台の向こうに日本海が広がっている。陽だまりの中で海を眺めてボーッとしていると、ずいぶんと遠くにいるような気がしてくる。

「能登で震度6強」の特別夕刊（北國新聞）が出たのはこの山歩きから4日後のこと。春先はいつも能登の山からスタートするこの山歩き。平和と言えば大げさだけど、平穏でこそ楽しめる「山歩き」だと、あらためて思い知らされた。

禄剛崎の灯台は「狼煙灯台」とも呼ばれている

「能登半島最北端」の碑

千畳敷と呼ばれる洗濯板のような岩礁

2 宝立山（ほうりゅうざん）

ブナ林の中の緩やかな道を進む

船の航行の目印 一帯で一番高い山

標高 471m

参考コースの所要時間 約3時間35分

奥能登に残るブナの原生林で有名な宝立山（ほうりゅうざん）に初めて出かけた。山頂付近まで車道があるが、ある程度歩かなくてはうしろめたくなるのが山好きの悲しいところ。さて、どのあたりから歩こうかと考えながら、珠洲広域農道に入った。

最後の集落・大町を過ぎたすぐ先で、道路が車両通行止めになっていた。地図を見ると、登山口の4キロほど手前だ。「ある程度」歩くのに手ごろな距離だ。封鎖場所は、冬に集落まで除雪する際の、除雪車のUターン場所になっているところで、路肩が広くなっている。ここに車を置かせてもらい、通行止めのゲート（2012年5月現在、解除されている）の脇から歩き始める。

甘い山水で喉（のど）潤す

道の両脇には1メートル前後の雪が残っている。この春一番のポカポカ陽気に気をよくしながら、車が通らない広い道を独り占めして快適に進む。すぐに、山腹からビニールパイプで引かれた水場にさしかかる。手ですくって飲む。甘い山水だ。右下の川伝いには、まだ雪が解けきらない水田が見える。大町集落最後の水田を過ぎると、左手山腹が崩れ、斜面の赤土がむき出しになったところにさしかかる。通行止めはこの崩落によるものだった。

そこからしばらく、珠洲市に入ったり輪島市に入ったりと、市境のゆるやかな上り坂を辿（たど）り一番高いところに出ると、前方に丸山あたりが見えてくる。ここから宝立山トンネルまでは、緩やかな下り道になる。判官橋（ぼんばし）を渡り、続いてトンネルの手前にある黒峰大橋を渡る。スタートして約1時間、4キロほどの道のりだ。

山腹からパイプで水が引かれている

参考コース

スタート 車止め ▶1時間10分▶ 宝立山トンネル・ポケットパーク ▶35分▶ 丸山分岐 ▶5分▶ 丸山往復 ▶15分▶ 宝立山(黒峰) ▶30分▶ 黒峰大橋 ▶1時間▶ 車止め

■おすすめの季節

車利用なら積雪期以外いつでも立ち寄れるが、車道を歩いて辿るなら、残雪期がおすすめ。

■アクセス

主要地方道57号線(珠洲道路)から県道288号線に入り、案内標識に従って右手の珠洲広域農道で宝立山トンネルへと向かう。

■アドバイス

三角点がある丸山は、漁協の電波施設付近の分岐右側の斜面を登ってすぐ。黒峰権現が祀られている宝立山へは、前述の分岐を左折してすぐに林道から屋根へと向かう2級基準点がある道が右手に見えてくる。この道に入ってすぐ左側の小尾根の踏み跡を、「黒峰の林叢」の白い標柱に従って辿ると山頂に出る。

■お問い合わせ

珠洲市役所観光交流課 ☎0768-82-7776

●国土地理院地形図　2万5千分の1地形図「宝立山」「松波」

▲手彫りの点名板

一休みしたら、トンネルの手前から左手にUターンしながら道路上の高架を渡って宝立山ポケットパークに出る。道を覆う雪は40～50センチほど。その上をいくらか潜りながら、山頂へと向かう。強い日差しが雪の照り返しとなって顔面に当たる。すぐにブナ林に包まれた谷筋にさしかかった。芽をつける前のブナ林は、とても明るい。

時折雪に足をとられながら坂道を進み、しっかり高度を稼いだところで右へ急カーブすると、ブナ林の中の平坦な道路になる。そこを上り切ると、右手の木の枝に結わえられた、古い赤布を見つける。三角点がある丸山への上り口のようだ。

三角点まではひと上りだ。一面雪だが、近くの木の枝に、赤布がつけられていて、「丸山」の点名板が取り付けられている。このところ頻繁に見かける手彫りの点名板は、加賀低山徘徊部によるものだ。

珠洲市と輪島市の境を進む

黒峰大橋を渡るとまもなくトンネル

谷筋はブナ林一色

あとがき

能登有料道路を走るたびに、能登はなんと広いところだろうと思います。見渡す限りどこまでも丘陵地が続き、高い山や深い谷はほとんど見かけません。たまに見かける平野部には必ず水田があって、数軒から十数軒と、その耕作面積に見合った規模の集落があります。山や谷が険しくないということは奥地へ入りやすく、峠越えも容易だったということでしょう。かつて耕作地を求めて小人数での移動が繰り返され、その集落と集落を行き来する道が網の目のように張り巡らされたようにも思えます。

宮本常一氏の「山に生きる人びと」という本を読んだことがあります。それによると、北海岸で盛んに行われていた塩づくりのために大量の薪が必要だったことから、奥能登の山々の雑木を切って馬の背につけ、北海岸まで運んだそうです。その人馬が通る道を地元の人たちは「塩木道」と呼んでいて、起伏の小さい丘陵の尾根にはたいていこの塩木道がつけられていたといいます。同じように、ところどころにそびえるスギが船木として供給され、この木を運ぶ道は「船木道」と呼ばれたのだそうです。長い船木は曲がり道や上り下りに便利なように二人で担いだので、休憩しやすいようにたいがい谷に沿ってつけられていたといいます。だとすると、人々は耕作地を求めて奥地へ入ったのではなく、山の仕事を続ける上で、自給のための耕作地を開いたと考える方が自然かもしれません。

能登半島を縦横無尽に走る道路に驚き、民俗学者でもないのにそんな素人推理を楽しみながら山や丘陵を歩かせてもらいました。これを機に能登の山歩きの楽しみ方を、多くの方々と共有できれば幸いです。

２０１２年５月

柚本寿二

[著者紹介]

柚本　寿二(ゆもと・ひさじ)

1948年香川県生まれ。全国各地の山を歩き、沢登り、イワナ釣りなどを楽しんでいる。山をフィールドとした遊びの達人。月刊『北國アクタス』で「ほくりく日帰り山歩き」を連載中。小松市在住。

〈著書〉

「白山に登ろう―全コースと見どころガイド」(北國新聞社)
「白山山系　とっておきの33山」(北國新聞社)
「越前・若狭　魅力の日帰り40山」(北國新聞社)
「ほくりく日帰り山歩き VOL.1、2」(北國新聞社)
「白山山系の渓流釣り」(北國新聞社)
「気分爽快　加賀の25山・25湯」(北國新聞社)
「気分爽快　富山の25山・25湯」(北國新聞社/富山新聞社)

撮影／山岸政仁
協力／アドバンス社

楽しもう能登の山

海山の幸と日帰り温泉

発行日　2012年6月1日　第1版第1刷
著　者　柚本　寿二
発　行　北國新聞社
〒920-8588 石川県金沢市南町2番1号
電　　話 076-260-3587(出版局直通)
E-mail　syuppan@hokkoku.co.jp

ISBN978-4-8330-1878-4
©Hokkoku Shimbunsya 2012 , Printed in Japan

●乱丁・落丁本がございましたら、ご面倒ですが小社出版局宛にお送りください。
送料当社負担にてお取り替えいたします。
●本誌記事、写真の無断転載・複製などはかたくお断りいたします。